

沖縄県の事業概要 ～国立病院機構 琉球病院～

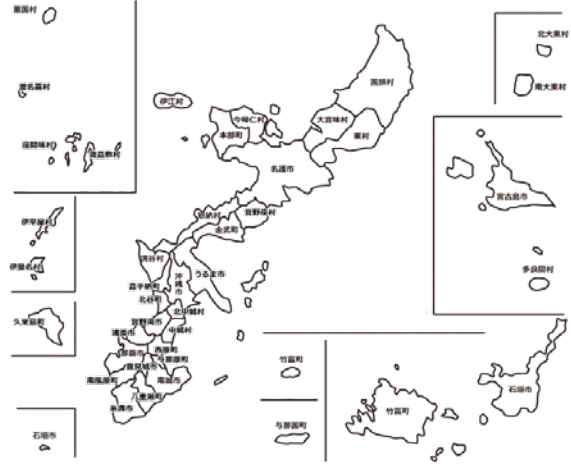
～悩みを抱える子ども達の笑顔と幸せのために～

【1】地域概要

- ・自治体担当管轄課：沖縄県 保健医療部 地域保健課
- ・児童数(0～19歳)：330,387人(令和2年1月1日現在)
- ・児童精神科系 医師数：不詳
- ・児童精神科のある医療機関数：12(子どもの心の診療機関マップ参照)

【2】拠点病院・機関概要

- ・拠点病院機関名：国立病院機構 琉球病院
- ・病床数：416床(うち重症心身障がい児(者) 90床、精神 289床、医療観察 37床)
- ・標榜診療科：内科・精神科・神経科・児童精神科・リハビリテーション科・麻酔科・(歯科)
- ・事業実施科名：こども心療科
- ・事業開始年：平成27年度
- ・子どもの心の診療機関マップ実施：平成29年度より実施(登録施設数：61医療機関)



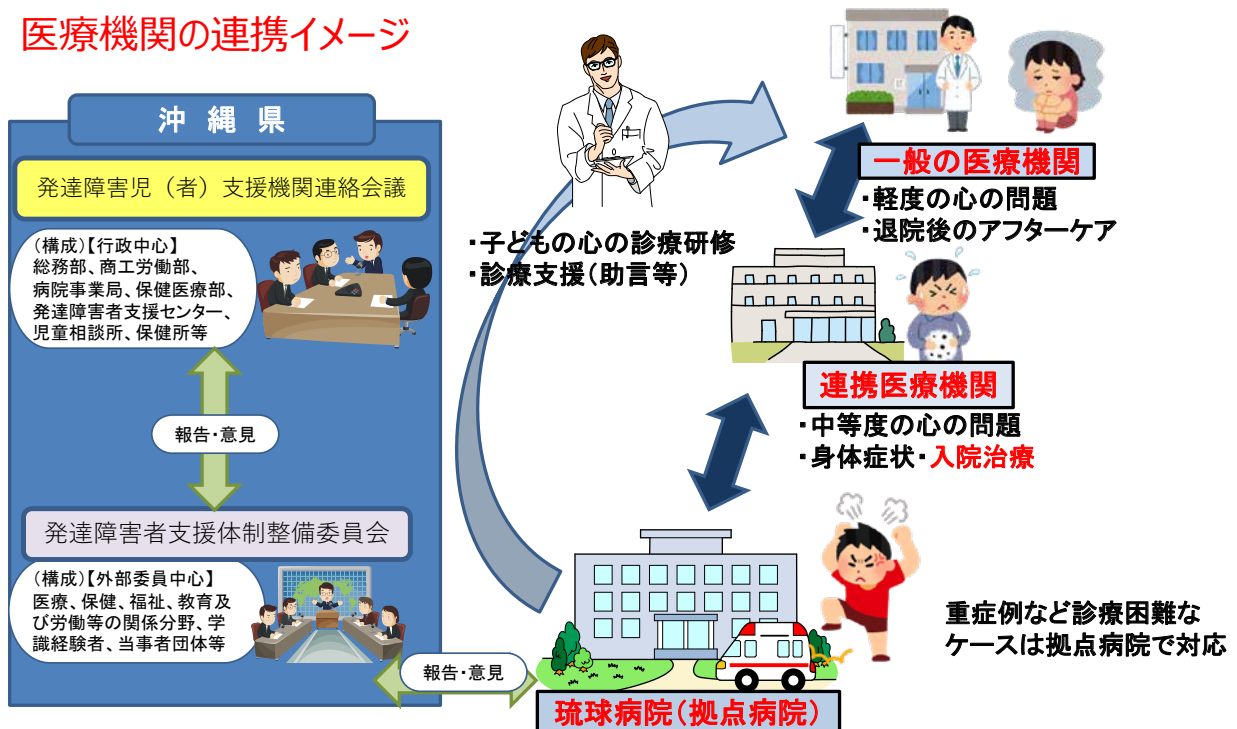
【3】事業実施への経緯

沖縄県では、平成26年度に策定した新・沖縄県発達障害児(者)支援体制整備計画に基づき、「沖縄県発達障がい者支援センターがじゅま～」が中心となり、発達障害児(者)への支援に取り組んでいる。県内では、発達障害の診断ができる医療機関の数が少なく、小児神経科や児童精神科等の専門的な医療機関に診察が集中する傾向があるため、診療待ちの長期化が慢性的な問題となっている。このため、平成27年度から発達障害の診断に対応する医療機関同士の連携や人材育成等を図るため、児童精神科医が複数在籍し、かつ十分な診療体制のある国立病院機構琉球病院を拠点病院として、本事業を開始した。

沖縄県の事業概要～国立病院機構 琉球病院～

【4】事業図

医療機関の連携イメージ



【5】実施事業の概要

①子どもの心の診療支援[連携]事業

- 子どもの心の診療相談窓口の設置(琉球病院子ども心療科内)
- 各関係機関(保健・福祉・教育等)との連絡会議の開催
- 発達障害等の症例に対する診療支援(事例検討会の開催)
- 離島地域(宮古島・石垣島・久米島)における医師等の派遣

②子どもの心の診療関係者研修・育成事業

- 医師及びコメディカルに対する実地研修等の実施
- 医療機関及び子どもの心の問題に携わる関係機関を対象とした研修会の開催
H28・・・「思春期・青年期の発達障害の理解と支援を考える。」「自閉スペクトラム症とEMDR」
H29・・・「こどもの心のトラウマケアについて(TF-CBT研修)」「感情をコントロールできない子への理解と援助」
H30・・・「複雑性PTSDを呈する患者に対する簡易型トラウマ処理」「不登校・ひきこもりケースの理解と支援」
- 子どもの心の診療に専門的に携わる医師ほか専門職の育成

③普及啓発・情報提供事業

- 子どもの心の問題に関する県民向け公開講座等の開催
- ホームページ等による情報提供
- 子どもの心の診療機関マップの作成及び公表(沖縄県発達障がい者支援センターと連携)
- パンフレット等普及啓発用印刷物の作成配布

【6】特徴や特に力を入れている事業内容

- 沖縄県は周辺離島が多く、人口に占める子どもの割合も高いが、発達障害の診断や子どもの心の診療に対応する医療機関及び社会的資源が少ないのが現状である。そのため、宮古島及び石垣島にある県立病院と連携し、離島地域での子どもの心の診療体制をサポートするとともに、地域における支援者研修等にも力を入れている。
- 子どもの心の診療ができる児童精神科医やコメディカルの数が少ないため、小児科医や精神科医及び臨床心理士等の見学実習について、積極的に受け入れを行っている。

【7】事業による効果と思われるもの(H23-27年度からの改善点など)

- こども心療科に専門の相談員を配置することで、受診相談件数の増加につながり、関係機関との連携がとりやすくなった。
- 子どもの心の問題に関する研修会の開催(年2回)を通して、県内の児童精神分野における専門性の向上が図られた。
- 離島地域(石垣島・宮古島・久米島)において積極的に診療支援を展開することで、離島地域の医療機関との連携が深まり、既存の医療資源では対応困難なケースの受け入れ、離島への転居ケースの紹介等、拠点病院と地域の医療機関とで双方向的なやりとりが可能となった。
- 子どもの心の診療機関マップの実施によって、発達障害や児童虐待など心の問題に悩む児童やその家族に対するスムーズな情報提供が可能となり、医療機関同士の連携にもつながった。
- 各領域の支援機関(保健・医療・福祉・教育)との連携が深まり、協働で支援を行う機会が増えた。

【8】目指す方向性について (今後の予定事業や展望、目標など)

【沖縄県】

県内に発生している待機患者の解消のために、子どもの心の診療ができる医療機関の数を増やすとともに、高度な専門機能を持つ拠点的な病院から地域の身近な医療機関までそれぞれが相互に連携し合う重層的な医療体制の整備を目指す。
将来的には県内の各圏域ごとに子どもの心の診療に対応する医療機関のネットワーク体制を整備し、患者やその家族が地域に偏りなく、適切な治療・支援を受けられる環境づくりを目標としている。

【琉球病院】

医療機関同士の「顔の見える関係性」の構築のため、県内で子どもの心の診療を行う小児科医や精神科医をメンバーとしたネットワーク会議の立ち上げを予定している。本会議では、県内の子どもの心の診療体制の整備のため、児童精神分野の人材育成や専門性の向上及び既存の医療資源の効果的活用等について協議を行い、拠点病院を中心とした地域の医療機関との連携強化を図る。将来的には、県内のどの地域に住んでいても必要な医療支援が受けられるような体制づくりを目標としている。